

エンジン部品用銅合金

三芳合金が特許取得

本田技研と共同 F1車に採用

大和合金グループの銅合金鑄造・鍛造メーカーである三芳合金工業（本社・埼玉県三芳町、社長・萩野茂雄氏）はこのほど、本田技研工業（本社・東京都港区、社長・伊東孝紳氏）と共同で出願していたエンジン部品用の銅合金部材で特許を取得した。本田技研はF1カー用エンジンの軸受け部品で、熱伝導性と強度が高い三芳合金のNC50合金を採用。その製法が特許として認められた。

同社の合金が用いられたのはF1エンジンの縦の動きを回転に変えるコンロッド用軸受けの裏側部分。エンジンの耐久性を左右するキー部品に位置づけられている。

06～08年に採用された同社のNC50合金は銅にニッケルとシリコンを添加したコルソン合金で、クロムと錫を配合したもの。

F1カーのエンジンは毎分1万数千回転するため軸受けにかかる負担が大きく、焼き付けを防ぐため軸受け部品には高い熱伝導が求められる。

三芳合金では本田技研の要望に応えながら、熱処理の条件などを工夫しF1エンジン向けに高い放熱性と強度を誇る銅合金を供給した。

許は技術担当の取締役だった藏本繁氏や製品開発課の江口逸夫課長らが発明者。藏本氏は

特許の取得前に亡くなったが、同社では感謝を込めて特許証のレプリカ「写真」を夫人に



同社の銅合金部品を用いたF1カーは06年のハンガリーグランプリで優勝している。特

贈った。

